

感謝ストラテジーにみる中国人日本語学習者の語用論的転移

Pragmatic Transfer in the Gratitude Strategies by Chinese Learners of Japanese.

市原 明日香
Asuka ICHIHARA

Keywords : expressions of gratitude, strategies of thanking, Chinese learners of Japanese, contact situations, language management

キーワード : 感謝表現、感謝ストラテジー、中国人日本語学習者、接触場面、言語調整行動

1. はじめに

日本語非母語話者が母語話者との接触場面で戸惑いを感じる言語行動の一つに、再会した際に「この間は」「先日は」「昨日は」等の主語で始まり「お世話になりました」「ごちそうさまでした」「ありがとうございました」等の述語が続く感謝表現がある。再会した場面の感謝表現は日本語非母語話者にとっては、「何に対して感謝しているのかすぐに思い出せない」、「再会の際のお礼の言葉にどのような意図があるのか理解できない」、「繰り返しお礼を言われて、どのように応答するのが適切なのか分からない」といった困惑がある（市原2018）。その一方で、日本語母語話者は、例えば、ごちそうをした翌日に非母語話者と再会した際にお礼を言われないことに訝しさや不満などの否定的な感情を抱くこともある。「ありがとう」と感謝を表明されることが当然と見なされる場面において、その予期される感謝表明を行わないことで不安や不満を抱かせた場合、Goffman（1966）の言う「行われた時は特に出来事としては認知されないが、もし行われなかった時は否定的な制裁を受ける、負の重大な事（“negatively eventful” kind）」（Goffman 1966 : 7）となる可能性が否めない。

本稿では、後日再会した場面での感謝表現を「後日の再感謝」と呼び、日本語母語話者と非母語話者で語用論的慣習に差異があるならば、日本語接触場面において日本語学習者がどのようにふるまうかについて考察する。そのため、感謝ストラテジーの特徴、発話内での位置、母語からの転移の有無の3点に注目し、量的に概要を記述した上で質的分析を行う。

2. 先行研究

2. 1. 日本語と中国語の「後日の再感謝」

川村（1991）は「先日はどうも」を中国語に訳せないという中国人通訳の戸惑いを例に挙げ、「後日の再感謝」が日本語の特徴であることを述べている。「先日はどうも」のようなあいさつは「相手からの恩恵に対する配慮」であり、これに対し「こちらこそ」と返答することは「貸し借りなし」であることを示すための相手の心の負担に対する配慮であり、人間関係維持のストラテジーとして重要だ（川村1991：53）という。アンケート調査によれば、日本語母語話者にとって「後日の再感謝」は、「円滑な人間関係を築くために重要」と考えられていることが示されている（市原2016b）。

一方、中国語では友人同士の親しい関係では感謝表現をあまり使用せず、再感謝については、言われたいとする研究（胡2006、川村1991）、言われるが頻度が少ないとする研究（施2007、李2014）、恩恵の種類によって言うときと言わないときがあるとする研究（李2014）があり、研究者によって見解が異なる。ただし、親しい人間関係で後日に再感謝の発話があった場合、「良い感じがしない」「他人行儀」等、否定的に受け止められているという点では見解が一致している（施2007、井上2016）。会話を分析した研究には、市原（2016a）があり、中国語では定型表現ではなく語用論的ストラテジーを使用して感謝を表明する特徴があるとしている。さらに、市原（2019）は、後日の再感謝の出現率は日本語のほうが有意に多いことを明らかにしている。

以上のように、後日の再感謝は、日本語と中国語で異なることが示唆されているが、中国語母語の日本語学習者が接触場面においてどのようにふるまうのかについては十分に明らかにされていない。学習者の日本語にL1中国語の影響が現れているのかを調査することにより接触場面でのコミュニケーションについて考察することが課題である。

2. 2. 語用論的転移

「語用論的転移」とは、「学習者のL2の語用論的情報の理解・産出・学習に対して、L2以外の言語や文化の語用論的知識が与える影響」（Kasper 1992：202、清水2009：175）と定義される。語用論的転移は、pragmalinguistic transferとsociopragmatic transferに分けられ、前者の研究では、「L1の特定の言語的素材に割り当てられた発話内行為やポライトネスの価値が、学習者のL2での形式と機能のマッピングの認識や産出に影響する過程」をみる。後者は文脈の理解に係る領域であり、「発話行為を行うことが適切かどうかの判断」、「文脈的要因の評価」、「コミュニケーション・スタイルの転移」が研究対象とされている（Kasper 1992：209、清水2009：177）。後日の再感謝の転移については、pragmalinguistic transferとsociopragmatic transferの両面に係る検討が必要であると考えられる。

形式と機能のマッピングに関する研究には、例えば、日本語で「すみません」という詫び表

現を感謝の意味でも用いることから、英語における感謝の場面で詫び表現「I am sorry (すみません)」を用いるといったことがある。また、ストラテジーの選択や組み合わせを分析するものもある。特定の発話行為を実現するために使用される表現や形式は「語用論的ストラテジー (pragmatic strategy)」(Frazer 1981, Kasper & Rose 2001) と呼ばれ、言語間での使用傾向が異なるだけでなく、場面・状況や個人によっても異なり多様である。例えば、相手からの感謝の応答に対して「いえいえ、こちらこそ」や「不用客气 (中国語で「遠慮はいらない」)」などと相手の感謝の言葉を否定するストラテジーを使うか、「With pleasure (「喜んで」)」と喜びの気持ちを表明するストラテジーを使うかといったことである。本稿では感謝の語用論的ストラテジーを「感謝ストラテジー」と呼ぶ¹⁾。

L1の語用論的ストラテジーが学習言語と異なるために学習言語の運用に影響することは「負の転移 (negative transfer)」と呼ばれ、その判定基準について、Beebe et al. (1990) では、学習者のL1、学習者のL2、目標言語TL (target language) の母語話者の3グループを比較し、特定の語用論の使用率の比較、人間関係による使用率の大小、語用論ストラテジーに関して定式化している²⁾。それによれば、語用論ストラテジーの母語の転移の判定は、TLと比べるとL1とL2のみ特定のストラテジーを使用している場合、TLと比べるとL1とL2のみ特定のストラテジーを使用していない場合とされている。「負の転移」は、単に学習者の母語と学習中の目標言語の間で、言語形式と機能などのマッピングが異なるということであり、それ自体に否定的な意味はない³⁾。筆者は語用論上の負の転移は、習得の過程において矯正すべきものというより、学習者独自の調整が捉えられる現象として重要であると考える。社会文化的な側面から言えば、言語コミュニティのニューカマーたちは慣習や規範を必ずしも受動的な態度で母語話者に同化するわけではなく、時には調整を行ったり抵抗したりもしながら、接触の過程で言語コミュニティの語用論的慣習を共同構築しているといえる。習得の程度ではなく、学習者の社会文化的な順応の程度がL2の語用論の選択に関わっていること (Kasper & Blum-Kulka 1993) や、自分たちのアイデンティティ維持のためにL2への同化をかならずしも目標としていない学習者がいることから、学習者の主体的な選択についても指摘されてきた。

L1からの「負の転移」を回避するために学習者が自らのL2を調整する過程については、言語管理理論 (村岡他2016) で論じられている。言語管理理論では、期待される文脈で特定の言語行動を行わないことを単なる「規範の逸脱」としてではなく、異文化の接触場面と捉える。村岡 (2016) によれば、同じ文化内のコミュニケーション場面ではない接触場面においては、問題の現れ方も問題処理の過程も特有の調整行動がみられるという。本研究も、L1からL2へ単純に語用論的慣習が転移するとは捉えず、また、それが学習者のL2の習得の程度のみ起因するとはみなさない立場にたつ。

3. 研究目的

本研究の目的は、日本語と中国語の「後日の再感謝」を比較対照し、そのうえで日本語母語話者との接触場面における学習者の「後日の再感謝」について明らかにすることである。

研究課題は以下の3点とする。

日中それぞれの母語場面と接触場面の「後日の再感謝」の発話について、

研究課題1. 感謝ストラテジーは日本語と中国語とで異なるか

研究課題2. 談話における初出位置は異なるか

研究課題3. 接触場面の会話に母語からの転移はみられるか

これらの課題に取り組むための研究設計について次節で詳述する。

4. 研究方法

まず、日本語母語話者同士と中国語母語話者同士の2グループの会話を比較し、使用されている感謝ストラテジーについて量的に概観する。次に、会話のやりとりを質的に分析し、日中の感謝ストラテジーの特徴を明らかにする。その結果をもとに、接触場面グループの会話から、日本語学習者のL1中国語の転移の有無について考察する。

本節では、研究協力者、データ収集の手順、ロールプレイ、文字化と初出位置の判定、感謝ストラテジーのコーディングについて順に述べる。

4. 1. 研究協力者

本稿では、日本語母語話者 Japanese Natives を JN、中国語母語話者 Chinese Natives を CN、接触場面において日本語で会話した中国語母語の日本語学習者 Chinese Native Learners を CNL、接触場面で日本語学習者と会話した日本語母語話者すなわち Japanese Natives in Contact situation を JNC と略称する。

研究協力者はのべ人数で CN の 25 組 50 人、JN の 25 組 50 人、CNL 22 人、JNC 22 人である。全員、東京の大学に所属する学生で、年齢は 19 歳～ 31 歳に分布し、平均年齢は 22 歳であった。CN は全員が大陸出身者で、日本語能力は中級以上、JLPT 試験 N2 以上を目安とした。L2 日本語を収録した CNL の 22 人については、日本語レベルは上級レベル (JLPT の N1 取得済み) が 18 人であった。

4. 2. データ収集の手順

人間関係および場면을統制するために自然会話ではなくロールプレイによる会話を収集した。ロールプレイ会話は日本語と中国語のそれぞれの母語場面 (JN-JN、CN-CN) と、中国語を母語とする日本語学習者の日本語母語話者との接触場面の会話 (CNL-JNC)、すなわち 3 つのグループの会話を同じロールカード (中国語訳付) を使用して収集した。

収集した会話は、友人関係の二人による恩恵の授受の場面とその後日の場面の会話である。友人関係としたのは、これまで日中の感謝の言語行動について、親密な人間関係における発話の有無という点で相違があることが指摘されてきたことによる。ロールプレイの友人同士の設定と同様に実際にも友人同士のペアであることを条件に行った。

収録に先立ち、大学での所属、性別、出身、日本語のレベル、学習期間、学習方法、日本語母語話者との接触頻度、日本語学習の到達目標などについてフェイスシートに記入してもらった。フェイスシートの情報から、海外生活の経験が5年以上の者や、家族の会話で日本語を使用しているという日中バイリンガルの者、英語等の第三言語のレベルをネイティブ並みと記した者は語用論的な影響を考慮し分析対象から除いた。

4. 3. ロールプレイ

ロールプレイは4枚のロールカードを順に提示して、1枚ずつ開始前に3分程度でそれぞれの役割設定を理解し調査者に確認する準備時間を設けた。ロールプレイの実施にあたっては可能な限り自然な会話を収集するため、以下の点に留意した。ロールプレイ会話の開始は録音録画を行う調査者が合図を出したが、カードに記載されていない内容詳細や会話の終了は会話者同士で判断して自然に終わるように指示した。また、場面設定に現実味が感じられなければ、調査者と相談してストーリーが変わらない範囲で自然に会話できる設定にしてもよいこととした。例えば「故郷のみやげ」を「海外旅行のみやげ」に変更する等があった。A役B役双方のロールカードは見せ合わないよう指示し、インフォメーションギャップから現実の会話に近い状況になるよう工夫した。また、再感謝の有無を検証するため、ロールカードに感謝を述べるという指示は記さなかった。

恩恵を受ける場面と、後日の場面の会話は、同日に連続して行ったが⁴⁾、4枚のロールカードは、後日であることや時間経過を示す時系列の場面設定で行った。ロールプレイ(1)はAがBに人の紹介を依頼しAが承諾する場面、ロールプレイ(2)はAがBから人の紹介を受けた後日の場面、ロールプレイ(3)はAがBにおみやげを渡す場面、ロールプレイ(4)は、おみやげをもらった後日の場面である。再感謝が予想される場面は(2)と(4)であり、分析データはこの2場面を対象とする。

ロールプレイで恩恵の内容を「労力」と「物質」の2種類設定したのは、中国語では恩恵内容が人間関係に係る「人の紹介」であるなら、その場で感謝を表明しない(市原2016)という研究結果があり、恩恵の内容によって使用される感謝ストラテジーが異なることも予測されるためである。具体的な恩恵の内容は、日本と中国の学生の友人同士の関係で実際に経験の多い恩恵内容を聞き取り、市原(2016)同様に「労力」を「人の紹介」に、「物質」を「おみやげ」と設定した。使用したロールカードを稿末の資料に記す。

4. 4. 文字化と初出位置の判定

録画会話の文字化にあたり発話はターンごとに1行で記した。ターンを区切る方法は、応答詞によるあいづちや、感嘆詞などの非実質的発話については、相手の発話と音が重なっている発話はターン取りとみなさず話者の発話文内に（ ）で記したが、非実質的発話でも音が重ならず相手の発話を区切るものや、音が重なっていても実質的発話に類するものは1ターンとし1行で記した。データの文字化の記号は以下の一覧のように、会話分析の標準的な記号法を簡略化して使用した。

会話データ内の使用記号一覧

- ー : 音声のひきのばし
- [: 発話の重なるの開始
- (笑) : 笑い
- ? : 上昇イントネーション
- < > : 動作
- 【 】内 : 感謝ストラテジー。会話例内では感謝ストラテジーの略称を使用する
- ⇒ : 感謝する側の発話のうち注目して論じたターン
- : 感謝される側の発話のうち注目して論じたターン

中国語会話は筆者が文字化した上で、データ全てに対して日本語レベルがJN並みである日本語教師と、通訳者であるCNの2人に確認を依頼し、CNの指摘に応じて修正する過程を経てデータとした⁵⁾。

4. 5. 感謝ストラテジーのコーディング

本研究でいう「ストラテジー」とは、Fraser (1981) が意味公式 (semantic formulae) という用語と置き換え可能なものである。特定の語用論を遂行するための方略のことであり、方略は単語、フレーズ、文などで構成され、談話分析では一般的にコードとして分類されコーディングされる⁶⁾。

まず、文字化した会話データから、再感謝の発話を感謝ストラテジー分類によってコーディングした。感謝ストラテジーのコードは、先行研究 (Eisenstein and Bodman 1986 & 1993、中田1989、赤堀1995、秦2001、Cheng 2005) で挙げられた全ストラテジーを参照し、分類した上でコーディングした。本研究でみられた全ての感謝ストラテジー数は378個であった。このうち55個のサンプルを抽出し、コーディング一致率を検定したところ、一致率は91.2%、 κ 値は $-1 \leq 0.82 \leq 1$ となり「ほぼ完全一致」の判定であった。

5. 結果

5. 1. 感謝ストラテジーの比較—研究課題1の量的記述—

前節で述べた手順で感謝ストラテジーをコーディングした結果、10種類のコードが抽出された。感謝ストラテジー名とそれぞれの定義、JNの発話例、CNの発話例を表1に示す。

感謝ストラテジー	定義	JNの発話例	CNの発話例
お返しの言及	返恩の申し出や言及	今度は私が持ってくるね	我请你吃饭呢/下次我给你带我家那边的特产 (あなたにご飯をおごるね/今度は私がうちの特産品を持ってくる)
関係継続の表明	今後の友情を強調するなど返礼や返恩についてではなく関係について言及する	(例なし)	我下次要跟你一起回你们X市玩。我要去吃你们那边的东西 (今度はあなたと一緒にX市に遊びに行きたい。あなたのところの食べ物を食べに行きたい)
利益内容への言及	相手の行為から具体的にどのような利益を受けたのか利益の内容について言及する	家族も食べて/会って話すことができて	她把那个信息告诉我了/我打算带回来和朋友一起吃 (彼女はその情報を私に教えた/持って帰って友達といっしょに食べようと思う)
負担に関する言及	相手の負担への言及、行為への必要性への言及	すみません/そんな事いいのに	太客气了/不好意思/麻烦您了 (水くさい/すみません/手間をかけてすみません)
ほめ	関係事物へのプラス評価、相手や相手の行為に対するほめ	すごい/おいしかった/すごく親切な先輩で/さすが~さん	特别好吃/挺好吃的/超级好吃/怎么贵的 (特別においしい/すごくおいしい/超おいしい/そんな高い物)
好ましさの表明	直接的なほめやプラス評価ではなく好ましさについて言及	家族みんな食べてね、もうなくなった。/全部食べちゃった自分で/フレンドリーな感じで	你送我的那个特产, 特别好啊, 对身体 (あなたがくれた特産品、すごく体にいいね)
感謝行為遂行的	その場の相手の言葉への反応として表明される定型表現の感謝	ありがとう/ありがとうございました/どうも	谢谢/谢谢啊/谢了/非常感谢/太谢谢你了 (ありがとう/ありがとうね/どうも/ありがとうございました/どうもありがとうございます/どうもありがとうございました)
気持ちの表明	驚き、嬉しさ、喜び、安堵などの感情や心的態度を表す発話	うれしい/まじで/えっ!/よかった	真的!/真假的/太棒了 (ほんと!/まじで/すごい)
受益の事実の表明	相手が受益者であることの明示や話し手の必要性への言及	~さんのおかげで/お世話になって紹介してくれて/もらったおみやげ/いただきました	我前两天就是你帮我介绍那个前辈, 我遇着他了/你帮个忙我 (あなたがこの間紹介してくれた先輩に会えた/あなたは私を助けた)
ジェスチャー	体の動きで感謝の気持ちを示す	会釈、お辞儀、拝み	自分の両手を握手

【受益の事実の表明】（以下、感謝ストラテジー名は【 】で表す）は、日本語で「～おかげ」「～てくれて」、中国語では「帮我」などの恩恵の授受の表現を使用する感謝ストラテジーである。ロールプレイの指示文どおりに「Bさんから紹介された先輩と会った」「もらったお菓子をおいしく食べた」と述べたのみの発話は数に含めなかった。同様に「おいしかった」のみの発話は【ほめ】に含めなかった。【利益内容への言及】は恩恵の内容について具体的に説明する感謝ストラテジーであるので、ロールカードの指示文以上の言及があった発話は数に含めた。【気持ちの表明】は驚きの発話としてJNには「え!」「まじで」、CNには「真的！（ほんと!）」「真假的（まじで）」がデータにみられ、驚きの発話それ自体は単独では感謝表現と認定できないものだが、全て他の感謝ストラテジーと組み合わせられて使用されていたため、感謝表現として数えた。ジェスチャーはこれまでの研究では感謝ストラテジーとして含まれていないが、本研究では恩恵に言及する発話と共に現れた場合は数に含めた。

JN、CN、JNC、CNLの後日の再感謝の発話にみられた感謝ストラテジーは表2のとおりである。

表2 後日の場面の感謝ストラテジー数の比較

感謝ストラテジーの種類	人の紹介後日				おみやげ後日			
	JN	CN	JNC	CNL	JN	CN	JNC	CNL
A-1 【お返しの言及】	0	5	0	0	1	1	0	2
A-2 【関係継続の表明】	0	0	0	0	0	3	0	0
B-1 【利益内容への言及】	42	15	13	9	1	3	2	1
B-2 【負担に関する言及】	0	0	0	0	1	0	0	0
B-3 【ほめ】	6	6	4	1	20	13	4	7
B-4 【好ましさの表明】	3	0	0	0	8	0	4	0
C-1 【感謝行為遂行的】	41	16	14	10	19	13	7	8
C-2 【気持ちの表明】	12	1	1	3	1	0	0	1
C-3 【受益の事実の表明】	15	12	4	5	3	6	0	0
C-4 【ジェスチャー】	7	0	0	1	2	0	0	1
合計	126	55	36	29	56	39	17	20

5. 1. 1. 「人の紹介後日」の使用ストラテジーの比較

CNには【お返しの言及】が5回使用され、JNの0回と比べると目立って多い。CNで最も多かったのは【感謝行為遂行的】の16回で次に【利益内容への言及】の15回があるが、JNは【利益内容への言及】の42回で、次に【感謝行為遂行的】の41回であった。一方、JNでは、【気持ちの表明】【受益の事実の表明】【ジェスチャー】の使用がCNと比較して多くみられた。

5. 1. 2. 「おみやげ後日」の使用ストラテジーの比較

JNもCNも【ほめ】と【感謝行為遂行的】を数多く使用した。【お返しの言及】はJNとCNで1回ずつであるが、【関係継続の表明】はJNにみられないのに対し、CNは3回みられた。CNで使用されなかったJNの感謝ストラテジーは【好ましさの表明】が8回、【負担に関する言及】が1回、【気持ちの表明】が1回、【ジェスチャー】が2回みられた。【受益の事実の表明】はCNが6回で、比較的多く使用された。

5. 1. 3. 使用ストラテジーの機能の比較

JNとCNとで使用される感謝ストラテジーの種類と数に異なりがみられることから、両者では「感謝」の意味と機能が異なることが考えられる。そこで、個々の感謝ストラテジーについて話者の負担の大小の観点から分類し、比較する。

感謝ストラテジーには、感謝する話者の態度として、その場で完結し言葉だけで済むもの（【感謝行為遂行的】や【気持ちの表明】など）と、【お返しの言及】や【関係継続の表明】のようにその後に自らの行動を約束するものがあり、後者のほうが話者の行動や負担が重く、感謝の表明の度合いも大きいと考えられる。また、【ほめ】のように表現について思考や工夫が必要なストラテジーがある一方で、それほど長い発話文を必要とせず定型表現を使用できるストラテジーがあり、後者のほうが話者の負担が軽いと考えられる。そのような、定型表現を使用してその場で短く表現するだけで感謝の表明が終了するという意味で、話者の負担が軽いストラテジーには【感謝行為遂行的】【気持ちの表明】【受益の事実の表明】【ジェスチャー】が挙げられる。以上のように、感謝を表明する話者の負担の度合いという観点から感謝ストラテジーの負担の重さについて、(A) 発話後に具体的な行動を伴い、かつ表現の工夫について話者の負担が重いもの、(B) 発話後の具体的な行動を伴わないが、話者が定型表現以上に表現上で工夫する負担があるもの、(C) 発話後の行動を伴わず、表現上の負担も軽いもの、の3種類に分類し、割合を比較した（図1、図2）。図1ではCN、JN、CNL、JNCの感謝ストラテジーのべ数を比較し、図2ではこれらの感謝ストラテジーを（A）（B）（C）の分類と2種類の場面別に割合を比較し、母語場面と接触場面の異同を示す。

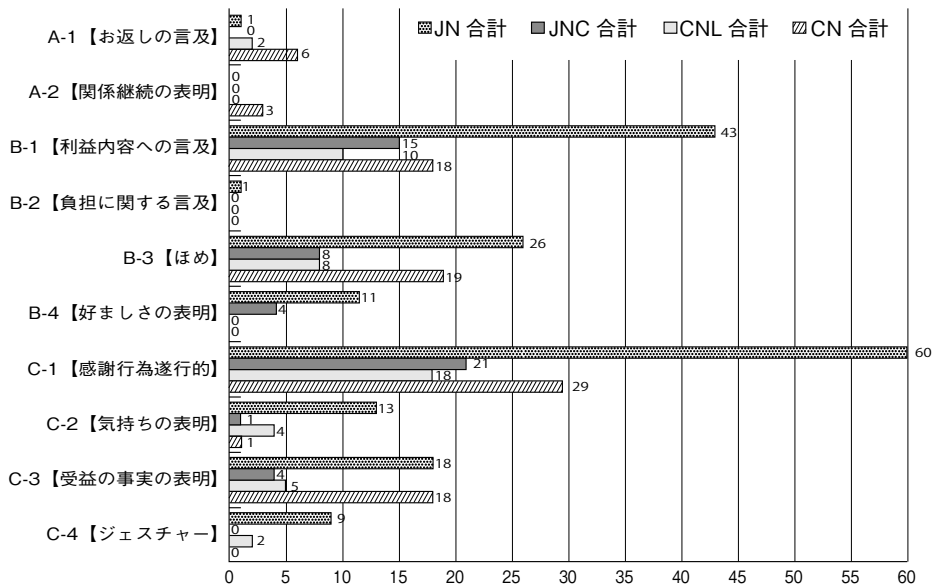


図1 母語場面 (CN, JN) と接触場面 (CNL-JNC) に現れた感謝ストラテジーのべ数2場面合計

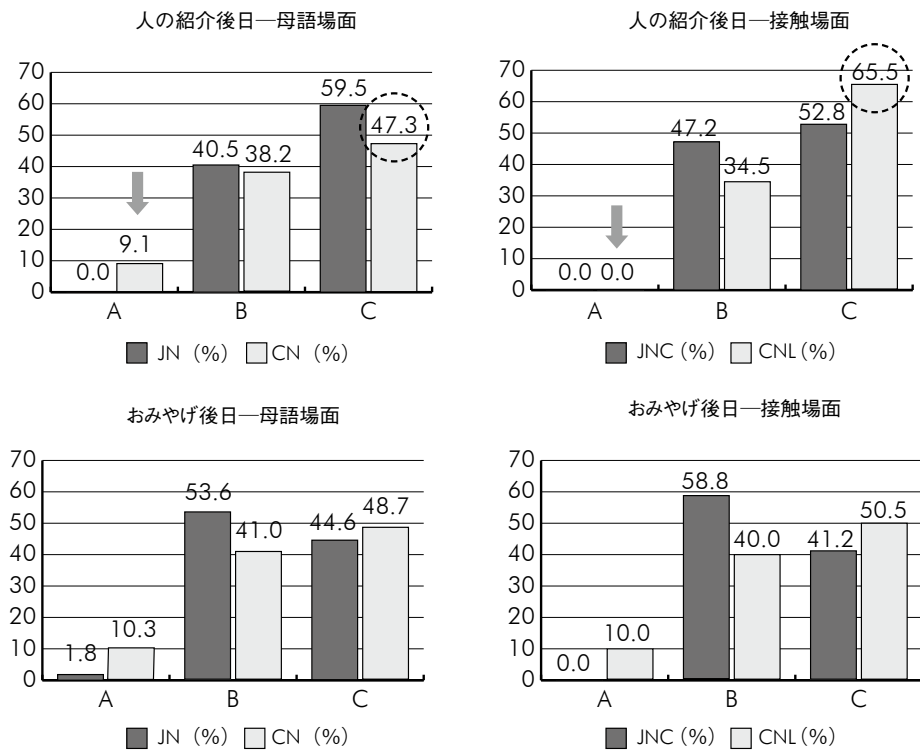


図2 感謝ストラテジーの使用割合の比較

図1と図2のように、「人の紹介」の後日の再感謝ではJNとJNCではA分類がみられないのに対し、CNではA分類が9.1%あることが特徴として示された。CNLではA分類がなくなりC分類が65.5%使用され、JN(59.5%)やJNC(52.8%)に接近していた。学習者が接触場面において母語話者の後日の再感謝へ発話を調整している可能性が示唆される。一方、「おみやげの後日」の再感謝について母語場面と接触場面を比較すると、A分類～C分類の割合に大きな変化はみられなかったことから、物質の恩恵については日本語母語話者と学習者の両者とも母語で使用している感謝ストラテジーと同様の種類のことを接触場面でも使用したといえる。

5. 2. 初出ターンの比較—研究課題2および3の量的記述—

「後日の再感謝」の発話が、会話開始から会話終了までの談話全体のうち何番目のターンに出現するかを集計したところ、初出ターンの平均値はJNが3.7ターン、CNが5.6ターン、JNCが2.9ターン、CNLが5.4ターンであった。(表3)。

表3 初出ターンの平均値

	母語場面		接触場面	
	JN	CN	JNC	CNL
平均値	3.7	5.6	2.9	5.4

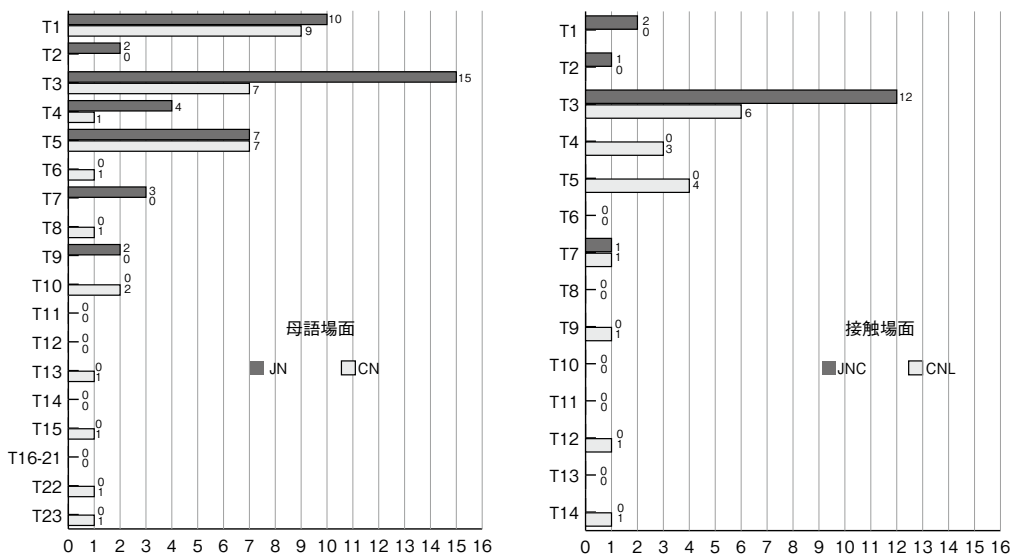


図3. 再感謝が出現したターン番号の比較 (T: ターン)

ターンごとの集計は図3のようになった。図3中の縦軸の「T」から始まる数字はターンの番号であり、左が母語場面、右が接触場面の比較の結果である。まず、母語場面を比較すると、JNでは43回の「後日の再感謝」の発話のうち、あいさつのターンが終わった3ターンに

初出した数が15回と最も多く、次に1ターンの10回が続くが、1ターンから9ターンの間に集中している。これに対し、CNは31回の「後日の再感謝」のうち1ターンで発話されることが最も多い9回となっている。この1～3ターンで発話されることはJNとCNの共通の特徴であるが、JNでは9ターン以降で発話されることがなかったのに対して、CNでは13ターン、15ターン、22ターン、23ターンなどでも発話されることが特徴的にみられた。

接触場面を見ると、JNCは1～3ターンに集中しており、外れ値が7ターンにあった。CNLは3ターンから14ターンまでみられ、談話の中盤から後半にも出現した。初出位置に関しては、それぞれの母語場面と類似していた。

5. 3. 母語場面の特徵—研究課題1および2の質的分析—

5. 3. 1. JNの会話例

JNの会話例1では、あいさつの発話が終わった直後の3ターン目（以下、カッコ内にターン番号を記す）でA役のJN23が先日の恩恵について話題にする（「佐藤さんから連絡いただいてさ 今度一回その就活の相談で会うことになったからさー」）。感謝ストラテジーのうちの【利益内容への言及】である。(04)でJN29が「よかったー」と反応すると、「うん ほんとありがとう」と【感謝行為遂行的】に感謝が表明され、(05)では、「ほんとにお話し聞けんのありがたいから」【利益内容への言及】、「ほんとにうれしい」【気持ちの表明】、「ほんと ありがとうございます」【感謝行為遂行的】と1つのターンで3種類のストラテジーが組み合わされて発話される。JNの再感謝の談話においては【感謝行為遂行的】が繰り返えされたり、「ありがとうございます」(07)のように敬体が使用される点がCNにはない特徴としてみられた。

〈会話例1 JNペア〉

T	話者	役	発話内容	【ストラテジー】
01	JN23	A	おはよー	
02	JN29	B	おはよー、ひさしぶり	
⇒03	JN23	A	ひさしぶり なんかさーこのまえちょうどさ 佐藤さんから連絡いただいてさ 今度一回その就活の相談で会うことになったからさー	【利益内容への言及】
04	JN29	B	よかったー	
⇒05	JN23	A	うん ほんとありがとう	【感謝行為遂行的】
06	JN29	B	だいじょぶだいじょぶ よかったよかった	
⇒07	JN23	A	ほんとにお話し聞けんのありがたいから (うん) ほんとにうれしい ほんと ありがとうございます	【利益内容への言及】 【気持ちの表明】 【感謝行為遂行的】

JNペアの会話例2では、JN52は(03)で座ってすぐに【感謝行為遂行的】と【ほめ】で「よいっしょ〈座る〉あ、このあいだのさ(うん)、ハリストのおみやげのお菓子超おいしかった。」と述べ、(05)でも「ほんとにありがとう。めっちゃ美味しかった」と【感謝行為遂行

的】と【ほめ】を繰り返し、JN51は感謝の受け手として相手からの言葉に重ねて「よかった。いえいえ。」と気持ちの表明と否定で受け、同じターンで話題を変える(06)。その後はロールカードにあるトピックを談話終了までやりとりする。

〈会話例2 JNペア〉

T	話者	役	発話内容	【ストラテジー】
01	JN52	B	お、JN52、隣空いてる？	
02	JN51	A	どうぞ、座って	
⇒03	JN52	B	よいっしょ〈座る〉あ、このあいだのさ(うん)、ハ リスタのおみやげのお菓子超おいしかった	【ほめ】
04	JN51	A	え、ほんとに？	
05	JN52	B	ほんとにありが[とう。めっちゃ美味しかった	【感謝行為遂行的】 【ほめ】
06	JN51	A	[よかった。いえいえ。え、なんか さ、この授業とったことあるよね？ JN52	
07	JN52	B	え、ない	

5. 3. 2. CNの会話例

次にCNの会話例をみる。CNが(01)で「後日の再感謝」を行うのは「人の紹介後日」の場面で、9人中8人あった。JNは(01)であっても、あいさつの直後に言及されているが、CNは会話例3のように、「嘿，那天我见到你说到那个前辈了(ねえ、この前あなたが言っていた先輩に会ったよ)」(01)とあいさつはなく再感謝の話題を始める例がみられた。

〈会話例3 CNペア〉

T	話者	役	発話内容	日本語訳	【ストラテジー】
⇒01	CN17	A	嘿，那天我见到你说到那个前辈了	ねえ、この前あなたが言っていた先輩に会ったよ	【受益の事実の表明】
02	CN18	B	怎么样啊？	どうだった？	
⇒03	CN17	A	嗯，她告诉我了一些关于找工作的事儿	うん、彼女は私に仕事を探すことについて教えた	【利益内容への言及】
04	CN18	B	你有信心吗？有把握吗？	自信があるの？成功すると思う？	
05	CN17	A	哎，还好吧。(4.0秒)对了，这个暑假你打算干什么呀？	まあ、なんとか。(4.0秒)この夏休みはあなたは何かをする予定？	

CN17は(03)で【利益内容への言及】を行った後、CN18から「自信があるの？成功すると思う？」と問われ、(05)で「まあ、なんとか」と答えた後で話題を変える。談話終了まで【感謝行為遂行的】はみられない。CNのみにみられた特徴として、このような【利益内容への言及】の感謝ストラテジーを使用しながらも【感謝行為遂行的】がセットでみられない発話があった。そのほかにCNのみにみられたのは、会話例4の(05)のように「あの会社はすご

く疲れるって聞いて。残業があつて。それに、何年も経ってから給料が上がるって」と恩恵を受けた結果に対するネガティブな報告があった。

〈会話例4 CNペア〉

T	話者	役	発話内容	日本語訳
04	CN09	B	啊, 怎么样?	あ、どうだった?
⇒05	CN10	A	啊啊, 聊了之后那家公司挺累的。还听, 还有加班。然后工资也就是工作好多年再涨	ああ、話した後、あの会社はすごく疲れるって聞いて。残業があつて。それに、何年も経ってから給料が上がるって
06	CN09	B	啊啊	ああ
07	CN10	A	我再找找吧。假期再干嘛?	また探すよ。休み中は何をしますの?

次にみるCNの会話例5は(18)で終了となる談話だが、全体をみると授業の話題を(04)から(07)までやりとりした後で(08)で先日の恩恵のおみやげについて触れるが、主題のように展開される。「嗯, 我也不太清楚耶。但上一次你给我的那个土特产, 谢谢啊, 特别好吃。(うーん、私もよく分からない。で、前回私にくれたあのおみやげ、ありがとね。すごくおいしかった。)」(08)とCN15が授業の話題の途中で感謝すると、CN16は視線を手元の講義要綱からCN15の顔に向けてCN15を見つめ、3秒の間をあけた後で(09)「那, 我下次再给我带一点(じゃ、次も、持ってくるよ)」と感謝される側として【関係継続の表明】を行い、CN15は(10)「真的吗? 那我下次回去也给你带我家乡土特产(本当に? じゃ私も次は私の故郷のおみやげを持ってくるね」と【お返しの言及】で応じる。

〈会話例5 CNペア〉

T	話者	役	発話内容	日本語訳	【ストラテジー】
01	CN16	B	欸	あ、	
02	CN15	A	CN16, 你也在这里啊	CN16、あなたもいたの?	
03	CN16	B	对啊。我在学习呢	うん、勉強中	
04	CN15	A	啊, 你也报了这门课吗?	あ、あなたもこの授業に登録したの?	
05	CN16	B	对啊	うん	
06	CN15	A	真的吗? 我也报了这门课耶	本当? 私もこの専門授業に登録したよ	
07	CN16	B	难吗?	難しい? 〈講義要綱をみながら〉	
⇒08	CN15	A	嗯, 我也不太清楚耶。但上一次你给我的那个土特产, 谢谢啊, 特别好吃。	うーん、私もよく分からない。ところで、前回私にくれたあのおみやげ、ありがとね。すごくおいしかった	【感謝行為遂行的】 【ほめ】
→09	CN16	B	(3.0秒) 那, 我下次再给我带一点	〈CN15の顔をみる 3.0秒〉じゃ、次も、持ってくるよ	

⇒10	CN15	A	真的吗？那我下次回去也给你带我家乡土特产	本当に？じゃ私も次は私の故郷のおみやげを持ってくるね	【お返しの言及】
11	CN16	B	好	うん	
12	CN15	A	你在看那个吗？你在看那个纲要吗？这节课的纲要。	何見てるの？要綱見てるの？今学期の講義要綱？	

以下のCNの会話例6も全20ターンのうち、前半10ターンが授業の話題で、後半10ターン目から談話終了の間に再感謝のやりとりがある。

〈会話例6 CNペア〉

T	話者	役	発話内容	日本語訳	【ストラテジー】
⇒10	CN22	B	对。上次你给我的礼物挺好吃。谢谢谢谢	はい。前回、きみがくれたおみやげすごくおいしかった。ありがとう	【ほめ】 【感謝行為遂行的】
→11	CN21	A	啊，是吧？是不是挺好吃的	あ、でしょう？とても美味しいよね	
⇒12	CN22	B	谢谢谢谢	ありがとう	【感謝行為遂行的】
→13	CN21	A	是挺好吃的	すごく美味しいよね。	
14	CN22	B	是是，对	そうそう、はい	
→15	CN21	A	老贵了	本当に高い	
⇒16	CN22	B	[哈哈 (笑)]	ははは	
→17	CN21	A	[一般人我真不给	普通の人なら送らないよ	
18	CN22	B	下次有什么我再带过来给你吧	次は何か私がまた持ってくるよ	【お返しの言及】
19	CN21	A	行啦，OK啦OK	いいよ。OK、OK	
20	CN22	B	好	うん	

CN22が(10)で「前回、きみがくれたおみやげすごくおいしかった。ありがとう」とおみやげの話題を提示すると、CN21は「あ、でしょう？とても美味しいよね」(11)、「すごく美味しいよね」(13)、「本当に高い」(15)と自ら与えた恩恵について【ほめ】を連続で使用し、CN22の笑いを誘い(16)、恩恵内容について話を展開させる。(17)で「普通の人なら送らないよ」と相手が特別な存在であることを伝える。CN22は「次は何か私がまた持ってくるよ」と【お返しの言及】で応じる。

なお、後日の再感謝がみられなかった談話には、2つのパターンがあり、1つめは会話の開始から会話の終了まで恩恵の内容について話題にしないパターンで、2つめは恩恵の内容について話題にはするが感謝表現が述べられないパターンである。JNには後者のパターンはみられず、CNのみにみられた。

以上のように、JNとCNの母語場面の会話を質的に対照したところ、感謝ストラテジーの選択と構成、および、談話における再感謝が表われる位置について差異が明らかになった。次項では、こうした母語場面の特徴が接触場面においても見られるか検討する。

5. 4. 接触場面への転移の有無—研究課題3の質的分析—

「人の紹介後日」では接触場面のJNCは11人全員が【感謝行為遂行的】を使用していたが、CNLのうち2人は【感謝行為遂行的】を使用しなかった。会話例7の接触場面のCN08は、(02)で「前はいろいろJN09から会社の事を聞いたんですけど」とロールプレイの指示文にある背景に言及したが、「で、JN09のこれから休みとかは？」と話題を変え、談話の最後まで【感謝行為遂行的】は現れず、そのほかの感謝ストラテジーも使用しない。CN08はCNL08として同じロールプレイをL1でも行ったが、L1は再感謝の発話はなかった。

〈会話例7 L2日本語〉

T	話者	役	発話内容
01	JNC09	B	ひさしぶり
⇒02	CNL08	A	ひさしぶり。ねえ、前はいろいろJN09から会社の事を聞いたんですけど。で、JN09のこれから休みとかは？
03	JNC09	B	うん。近いと夏休みとかだよ（うん）夏休みはバイトもするけど、とりあえず今公務員になりたいから、公務員試験の勉強が忙しくなりそうかなって思ってる
04	CNL08	A	ふーんなるほど。で、いろいろ試験を受ける予定でしょ？

次に挙げる会話例8-1のCN03と会話例8-2のCNL03は、同じ人物が同じ場面のロールプレイをL1とL2で行った会話である。

〈会話例8-1 L1中国語〉

T	話者	役	発話内容	日本語訳
01	CN03	B	哈, CN04	やあ、CN04
02	CN04	A	哇, CN03	わ、CN03
⇒03	CN03	B	你也上这个课啊？	あなたもこの授業をとろうと思ってるの？
04	CN04	A	这样, 我正在犹豫呢, 要不要上这个课	私は登録しようかどうか迷ってる
⇒05	CN03	B	啊是吗? 这是我专业课所以我不到不报嘛	あれそうなの? これは専門の授業だから私は取らないとならないけど
06	CN04	A	那, 怎么样?	じゃ どのなの?
⇒07	CN03	B	我也不上, 嗯, 你在看那个提纲是吗?	私も知らないけど、あなたは今シラバスを見ているの?
08	CN04	A	对对对对	うんうん
09	CN03	B	借我看一下好吗?	私にも見せてくれない?

会話例8-1では、CN03はCN04に対しておみやげについて話題に出さず、再感謝も行わないが、会話例8-2のL2日本語では以下のように再感謝をする。

〈会話例8-2 L2日本語〉

T	話者	役	発話内容
01	CNL03	B	JN03さん、こんにちは
02	JNC03	A	こんにちは
03	CNL03	B	この授業、登録しました？
04	JNC03	A	そうですね。あのちょっと講義要綱見ていたんだけど考えています
⇒05	CNL03	B	そうですか。このあいだもらったあのおみやげ、おいしかったです。ありがとうございます〈ジェスチャー拝み〉
06	JNC03	A	あ、ほんとですか？よかったです
⇒07	CNL03	B	まあ今日もここで会ってよかったですね。この授業、私の先生の授業だから私登録しないとイケないです
08	JNC03	A	あ、そうなんですか

CNL03は接触開始のあいさつが終わった(03)で「この授業、登録しました？」と、授業の話題を持ち出す点で、JNと異なる。しかし、続けてCNL03は「そうですか。このあいだもらったあのおみやげ、おいしかったです。ありがとうございます」(05)と【感謝行為遂行的】を発話しながら、相手に向かって両手を合わせて拝むというJNに特徴的なジェスチャーも行い、L1母語場面ではなかった再感謝を行う。次のターンでは「まあ今日もここで会ってよかったですね。この授業、私の先生の授業だから私登録しないとイケないです」(07)と、すぐに話題を変えて感謝の談話を終わらせる点もJNの特徴である。

会話例9もCNLがJNに特徴的な感謝ストラテジーを使用した例である。

〈会話例9 L2日本語〉

T	話者	役	発話内容	【ストラテジー】 および分析メモ
07	CNL48	A	ひさしぶりだよ	
08	JNC33	B	ひさしぶり。忙しい？最近	
09	CNL48	A	うーん、最近はちょっと忙しかった。ちなみになんか、私、あの先輩、あ、三人きり食べて(うん)後あの先輩から連絡先をもらって	【受益の事実の表明】
10	JNC33	B	あ、もらったんだ	
⇒11	CNL48	A	うん(おお)で、また、あの先輩といっしょに食事して会社の話いっぱいしてた。ありがとう	【利益に関する言及】 【感謝行為遂行】
→12	JNC33	B	よかったよかった	

- ⇒13 CNL48 A JN33ちゃんのおかげで 色々情報ゲットしましたー 【利益に関する言及】
敬体へのスピーチレ
ベルシフト
- 14 JNC33 B よかったお力になれて
- ⇒15 CNL48 A (笑) なんかあの会社は確かに、なんかー女子はや 否定的なコメント
っぱりつらいと聞いてて
- 16 JNC33 B ふうん
- ⇒17 CNL48 A やっぱりなんか、ちょっと考えたほうがいいかなと
先輩から聞いて。そうですねって
- 18 JNC33 B むずかしいんだ
- ⇒19 CNL48 A むずかしい。そう、で、また他の会社もいろいろ、 否定的なコメント
いい会社とか探すかなと思って。ま、順調だった。 【感謝行為遂行】
ありがとう (笑)
- 20 JNC33 B よかった
- 21 CNL48 A で、夏休みは？
- 22 JNC33 B 夏休みはね、英語の試験があるから資格とらなくち
ゃいけない

CNL48は(09)で【受益の事実の表明】、(11)で「で、また、あの先輩といっしょに食事して会社の話いっぱいしてた。ありがとう。」と【利益に関する言及】【感謝行為遂行】で感謝を表明する。しかし、(15)から(17)の内容は「女子にはつらい会社」で「ちょっと考えた方がいい」という否定的な報告が続く。この否定的な報告はCNのみにみられた特徴であった。しかし、その後、(19)で再び「ありがとう」と述べ、【感謝行為遂行】を談話の中で繰り返すJNの特徴もみられた。さらに、「JN33ちゃんのおかげで色々情報ゲットしましたー」(13)と感謝の発話においてのみ敬体になり、次のターンでは「なんかあの会社は確かに、なんかー女子はやっぱりつらいと聞いてて」と会話開始から続いていた友人同士の常体に戻っている。

以上の接触場面における会話例についてまとめると、会話例7は、恩恵の内容について言及しつつも再感謝を行わないということからL1からの語用論上の負の転移と考えられる例であった。会話例8-1と会話例8-2を比較すると、L1では恩恵の内容について話題に出さず再感謝も行わないが、L2日本語では再感謝が行われた。あいさつのターンのすぐ後ではなく、一度、本題の話題を持ち出した後で再感謝を行った点はL1の特徴であるが、【ほめ】【感謝行為遂行的】【ジェスチャー】のストラテジーを組み合わせて使用する点ではL2への調整が現れている。会話例9のCNL48のL2にはCNとJNの双方の特徴が観察された。これらは接触場面での言語調整行動として捉えられる。

6. まとめ

本稿は、日本語と中国語のそれぞれの母語場面(JN-JN、CN-CN)と接触場面(CNL-JNC)のロールプレイのデータを収集し、感謝ストラテジーの数と特徴、発話内での位置、母語から

の転移の3点に注目し、量的に記述した上で質的分析を行った。JN、CNのそれぞれの母語場面について比較対照した結果を踏まえて、接触場面でのCNLのふるまいについて明らかにした。

研究課題1の「感謝ストラテジーは日本語と中国語とで異なるか」については、JNとCNで差異がみられる結果となった。JNは定型表現による【感謝行為遂行的】や【受益の事実の表明】といった話者にとって負担の軽い感謝ストラテジーを多用し、全体的にみても顕著な数であった(図1)。また、CNには使用されずJNのみが使用した感謝ストラテジーは【負担に関する言及】と【好ましさの表明】であった。CNはJNと比較して全体的な感謝ストラテジーの数は少ないが、JNには使用されずCNのみが使用したのは【関係継続の表明】であった。

再感謝の特徴を捉えるために、感謝ストラテジーの性質を話者の負担という面から検討すると、CNの【関係継続の表明】は、発話後の行動を約束するという行動の上でも、表現の上でも話者にとって負担の重い感謝ストラテジーである。これは、JNに特徴的な「ありがとう」などの【感謝行為遂行的】や、「～てくれて」「～のおかげです」などを使用する【受益の事実の表明】などの、その場での定型表現で感謝の表明が完結する負担の軽いストラテジーとは対照的であった。JNの「後日の再感謝」が、「あたりまえの慣習」や「話すきっかけ」(市原2016b:8)であるという先行研究の結果の証左と考えられる。CNが使用した感謝ストラテジーは【好ましさの表明】などのその場で完結するだけの表現よりも、【お返しの言及】や【関係継続の表明】といった相手との人間関係を重視し、将来的に行動することを宣言する負担の重い種類の感謝ストラテジーがセットで使用されていることから、先日の恩恵が感謝する側と感謝される側によって互いに単独の話題としてやりとりされていることが窺える。

JNの後日の再感謝が「あたりまえの慣習」であるならば、談話の流れの中であいさつのように発話されることが推測される。そこで、研究課題2では「談話における初出位置は異なるか」について分析した。JNの後日の再感謝はほとんどがあいさつ終了の次のターンで現れ、本題に入る前にみられた。それに対して、CNでは談話の後半から談話終了までの間にも「後日の再感謝」のやりとりがみられ、新たな話題のように扱われている。研究課題2の結果から、JNの「後日の再感謝」には接触の開始のあいさつの後に、相手からの恩恵について表明し再感謝を行うという談話のパターンがみられた。本題に入る前に相手に対する肯定的な態度を表す語用論的慣習であるともいえる。

次に、再感謝の発話を質的に分析すると、CNの特徴として恩恵内容についての否定的な報告がなされることが新たに明らかになった。ロールカードには否定的な情報は含まれてはならず、CNは自ら話を作って相手に述べていたことになる。これは、CNにとっては、むしろ、【感謝行為遂行的】を使用せず否定的な事も含めて報告し、自らの情報を開示することが、友人間で感謝を示すという語用論的慣習なのだということも考えられる。あるいは、友人からの恩恵を受けることをあらかじめ回避して「貸し借りなし」の状況を設定しているとも言えよう。JNが【感謝行為遂行的】を多用して「貸し借りの不均衡の調整(Ohashi 2013)」をするのに対し、CNは感謝される側との双方の【関係継続の表明】や【お返しの言及】によって調

整していると考えられる。一方、JNのみにみられた特徴としては、再感謝の表現においてスピーチレベルを常体から敬体へとシフトする現象が明らかになった。

最後に、研究課題3として「接触場面の会話に母語からの転移はみられるか」について会話例から分析した。会話例7では語用論上の負の転移が観察された。しかし、談話内の出現位置や感謝ストラテジーを分析すると、負の転移ないしはL2習得と言い切れない。会話例8-2のCNLはL2の後日の再感謝を行い、感謝ストラテジーをL2へと調整しているが、出現位置を見るとL1の特徴に近い。会話例9では、出現位置からはL2の会話の開始部に談話上の機能として使用しているといえるが、L1のみにみられた否定的な報告を行うことや、L2のみにみられた感謝表現の敬体などがみられた。したがって、これらの会話例は日本語学習者による中間言語的な再感謝として注目される。すなわち、単に母語の語用論ストラテジーを転移させるのではなく、日本語のそれへと調整する言語調整行動の一端と言えよう。

本論の日本語学習者CNLの言語調整の事例から、これまでの語用論的転移の研究(Eisenstein & Bodman 1986, Beebe et al.1990, Kasper1992)のように、学習者の発話データと母語話者の発話データのデータ群から語用論上の負の転移とみなされる数値を検定するだけでは、転移の有無を検証するには不十分である点が示唆される。データ群を量的に分析するだけではなく、個々人のL1とL2の会話データから接触場面でのふるまいを質的に分析することで、負の転移あるいはL2の習得の二項対立ではなく、学習者独自の言語調整行動を観察することが可能となった。本論で明らかになった語用論面での言語調整行動がどの程度まで一般的であるか、量的分析を行うには至っていないが、JNとの接触場面の会話において、日本語に特徴的な感謝の言語行動が学習者によってどのようにふるまわれるのかを記述することができた点に意義があると考えられる。

最後に今後の課題を述べる。本論の研究協力者のCNとCNLは日本国内の留学生に限られているが、これらに加えて日本語を学習した経験のないCNの感謝ストラテジーと比較することによって、より厳密に日本語の影響を検証することができる。また、接触場面のJNCのふるまいについてもCNLに影響を及ぼしている可能性がある。さらに会話を精査する必要がある。加えて、JNCが学習者による再感謝や感謝ストラテジーをどのように受け止めるのかを明らかにすることで、日本語での接触場面のコミュニケーションに寄与できると考える。

【注】

- 1) ストラテジーは組み合わせられて使用され「発話行為セット (speech act set)」（Eisenstein & Bodman 1986）となる。
- 2) このほかに特定の語用論ストラテジーに関して対人関係が異なる相手への使用範囲の比較も基準とされている。
- 3) 転移 (transfer) という語への批判にはPavlenko & Blackledge (2004) がある。
- 4) (注1) この際、母語場面と接触場面の両場面の収録に協力した者については、連続してロールプ

レイを行うことで学習言語である日本語と母語の中国語のどちらかの言語の影響を受け、使用する表現や感謝ストラテジーが類似する可能性が考えられたため、日本語接触場面と中国語母語場面の収録は、最短でも1週間以上3週間までの間の時間を空け、1回目の収録時に使用した表現を記憶していない状態で2回目を収録した。

- 5) 中国語会話の文字化にもこれらの記号を共通して使用したが、記号の量が極めて少数となった。日本語よりも1ターンの発話が長めで、相づちそれ自体の数が日本語よりも少ない上に、相づちだけで1ターンとして成立する発話も日本語と比べて少なかったためである。また、感嘆詞の「あー」「わー」などは中国語表記では「啊啊」「哇哇」となるため、音声ひきのばし記号はほとんど使用しなかった。
- 6) 「謝罪」の研究でBlum-Kulka (1983) は発話行為遂行のため言語の意味と形式の組み合わせをstrategyと呼んでいる。

【参考文献】

- 赤堀由紀子. 1995. 「日本語母語話者の感謝表現—ストラテジーの種類とその使い分けを中心に—」、『待兼山論叢日本学篇』、29、49-63.
- Beebe, L.M. & Takahashi, T. & Uliss-Weltz, R.1990. Pragmatic Transfer in ESL Refusals. In R. C. Scarcella et al. (eds.) *Developing communicative competence in a second language*. NY: Newbury House.
- Cheng, S. W. 2005. *An exploratory cross-sectional study of interlanguage pragmatics of development of expressions of gratitude by Chinese learners of English*. Unpublished Ph.D. Dissertation: The University of Iowa.
- 秦秀美. 2002. 「日・韓における感謝の言語表現ストラテジーの一考察」、『日本語教育学』、114、70-79.
- Coulmas, F. 1981. Poison to your soul: Thanks and Apologies contrastively viewed. *Conversational Routine*, The Hague: Mouton., 69-91.
- Eisenstein, M. and Bodman, J. 1986. "I very appreciate": Expressions of gratitude by native and non-native speakers of American English. *Applied Linguistics*, 7(2), 167-185.
- Eisenstein, M. and Bodman, J. 1993. "Expressing Gratitude in American English", In Kasper and Blum-Kulka (eds.) 1993. *Interlanguage Pragmatics*, Oxford University Press.
- Fraser, B. 1981. "On Apologizing", In Coulmas (eds.) *Conversational Routine*, The Hague: Mouton., 259-271.
- Goffman, E. 1966. *Behavior in Public Places*. New York.
- 市原明日香. 2016a. 「日本語の『後日の再感謝』ストラテジー—中国語の談話との比較から」、『言語文化と日本語教育』、51、21-29.
- 市原明日香. 2016b. 「日本語母語話者の記述回答にみる『後日の再感謝』の発話行為—『解釈フレーム』と『コンテクスト化の慣習』を枠組みとして—」、『人間文化創成科学論叢』、19、1-9.
- 市原明日香. 2018. 「日本語学習者は『感謝』の語用論上の差異をどのように捉えているか—『ありがとう』に対する戸惑いと困難—」、『待遇コミュニケーション研究』、15、1-17.
- 市原明日香. 2019. 「『後日の再感謝』にみる語用論的転移—L1中国語、L1日本語、L2日本語の談話分析から—」、『比較文化研究』、135、169-181.
- 井上優. 2016. 「招待講演 日本語から見た中国語の文法とコミュニケーション」、『中国語教育』、14、1-22.
- Kasper and Blum-Kulka (eds.) 1993. *Interlanguage Pragmatics*, Oxford University Press.
- Kasper, G., & Rose, K. R. (Eds.) 2001. *Pragmatics in language teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Kasper, G. 1992. Pragmatic Transfer. *Second Language Research*, 8(3), 203-230.

- 川村よし子. 1991. 「日本人の発話の特性」、『日本語学』、10(5)、51-63.
- 胡金定. 2003. 「日中コミュニケーションの違い」、『言語と文化』、07、157-170.
- 村岡英裕・ファン・高民定. 2016. 『接触場面の言語学—母語話者・非母語話者から多言語話者へ—』
ココ出版.
- 中田智子. 1989. 「発話行為としての陳謝と感謝—日英比較—」、『日本語教育』、68、191-203.
- Ohashi, J. 2013. *Thanking and Politeness in Japanese—Balancing Acts in Interaction*, NY: Palgrave
Macmillan.
- Pavlenko, A. & Blackledge, A. (eds.) 2004. *Negotiation of Identities in Multilingual contexts*.
Clevedon, England: Multilingual Matters.
- 施暉. 2007. 「再感謝表現についての日中比較」、『中國學研究論集』、19、108-100、広島中国学学会.
- 清水崇文. 2009. 『中間言語語用論概論—第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育』、スリ
ーエーネットワーク.
- 李華勇. 2014. 「日本語と中国語における『感謝の発話』の対照研究」、未公刊 大阪大学博士論文.

【資料】ロールカード

(1) 「人の紹介（労力の恩恵）」場面

- A：あなたは学生です。あなたの就職したい会社の先輩を友人のBさんが知っていると聞いて、Bさんと会う約束をしました。Bさんに先輩を紹介してほしいと話します。
- B：あなたは学生です。友人のAさんに協力しましょう。

(2) 「人の紹介後日（労力の恩恵の後日）」の場面

- A：昨日、Bさんから紹介された先輩と会って会社の話を聞くことができました。今、大学でBさんと会いました。長期休みの予定について話しましょう。あなたは就職活動をしたり、実家に帰る予定です。（あなたから話しましょう。）
- B：大学でAさんと会いました。長期休みの予定について話しましょう。あなたは資格試験の勉強で忙しくなりそうです。

(3) 「おみやげ（物質の恩恵）」場面

- A：長期休みが終わったので、Bさんのために買ったおみやげを渡します。おみやげは大きな箱に入った、値段が高いおいしいお菓子（注：内容は自由、お菓子でなくても可）です。（あなたから話しましょう。）
- B：長期休みが終わりました。Aさんはきれいに包装された大きな箱を持ってきました。あなたは驚きます。しかし、明日の授業の登録のために急いで事務室に行かなければならず、箱を受け取っても開けずに、少し話をしたら帰ります。

(4) 「おみやげ後日（物質の恩恵の後日）」の場面

- A：昨日、Bさんが登録すると言っていた授業が今日から始まるので、あなたも教室に行きました。新しい授業でまだ何も分からないので、この授業をとるか決めていません。あなたは講義要綱を持って見えています。Bさんが教室に入ってきました。その後は自由に会話をしましょう。
- B：昨日、Aさんからもらったお菓子をとてもおいしく食べました。今日は登録した授業が始まるので教室に行きました。新しい授業の内容も先生も分からないのですが専門の授業なので登録しました。教室にはAさんが座っていました。Aさんは講義要綱を持っているので、見せてもらいましょう。隣に座って話しかけてください。